



制服の世界
THE UNIVERSE OF UNIFORMS
世界の制服

おあた しんべい
太田 心平 民博 民族社会研究部

一九八二——民主化にゆれた韓国の学生服

かつて日本で学生服といえば、学ラン、セーラー服のイメージだった。じつは、韓国でもそうだったとはご存じだろうか。日本統治時代に制度化された学生服が自由化されて三〇年、韓国の学生たちの制服はどうなっているのだろうか。



筆者が着ていた学生服は、韓国人には馴染みが薄い旧海軍式だった

ソウルで同年代の韓国人たちと話をしていたときのこと。高校の制服は、学ランだったか、ブレザーだったかと聞かれた。彼／彼女らの認識では、日本の学生服はこの二種類にわかれるのだそう。こうした彼／彼女らの認識は、どうやって出来あがったのだろうか。もちろん、韓国人がみな同じ認識をもっているわけではないが、この点をつきつめていくと、面白い話がいくつか出てくる。

二種類の制服

韓国の中学高校の制服は、一九八二年度を境に、新旧二種類にはつきりとわかれる。

生徒は制服を着用して登校すべしという発想が朝鮮半島にもたらされたのは、日本による植民地支配の時期（一九〇〇～四五年）のことである。いや、そもそも学校という近代教育の装置自体、その時分に日本からもちこまれたものなのである。以降、八二年度まで韓国では、学ラン姿の男子生徒と、セーラー服姿の女子生徒をみる事が出来た。ただ、日本と違って服が似たように変化しているということを、若者たちは学園マンガなどを介して、感覚的に認識していった。

校服自律化とは何だったのか

韓国の中高生たちは、けっきょく学生服を着ることになった。では、校服自律化とは何だったのだろうか。

ほとんどの読者は、当時の韓国の人びとが、日本文化の影響を排除しようとしたのだと考えるだろう。もちろん、当時にそういう話がなかったわけではないし、結果的に韓国の学生服が日本式のスタイルを脱したのはこのときだった。だが、それよりもっと考えるべきことはある。

当時の韓国は、軍事政権の真つただなか。独裁打倒をさげふ民主化運

ていたのは、どの学校でも、校章以外、まったく同じ制服だったという点だ。つまり、学校が定めたのではなく、国家が義務つけた制服だったのである。だが、日本でもたびたび議論をよんでいるのと同様に、制服着用規則には反対意見もあった。個性や自主性を無視している、非人権的だなどという声が高まった。こうして韓国政府は、中学高校の制服を廃止することにした。「校服自律化」という。

一九八三年度から、韓国の生徒たちは私服で登校できるようになった。しかし、これも長くは続かない。私服では学校内外での生徒指導が難しいという教師側の事情や、子どもには制服を着せておいた方が安上がりで楽だという保護者側の事情、そして青少年の退廃を危惧する世論に後押しされ、それぞれの学校であらたな制服が制定されていった。細かいデザインや色などは学校ごとに異なるが、ほとんどの学校が欧米でも一般的なブレザーを採用したため、旧式とは明らかに違いがでた。

こうして韓国で新しい制服が登場した時期は、偶然にも、日本で学ランやセーラー服が少なくなっていた時期と重なる。そして、日韓の学生服が、激しさを増していた。これに対し、当時の大統領の全斗煥は、国民の関心を政治からそらすための策をとった。中学高校の校服自律化、そして髪型に関する規則の緩和も、その例だった。しかし、民主化運動の嵐はその後も強まったし、一九八七年には民主化宣言が出た。中高生に私服登校を許す意味が、すぐになくなったわけだ。つまり、学生服の変遷も、一九八七年の民主化宣言へと続く、韓国現代史的一幕だったといえよう。

今年三月二〇日にリニューアルオープン予定の本館展示「朝鮮半島の文化」では、韓国・朝鮮の伝統的な姿だけではなく、その植民地化や近代化、脱植民地と脱独裁の状況、そして世界文化の韓国的な消化法について、たっぷり御覧いただく計画である。ここで学生服を例にとって御紹介したような数々のストーリーを、展示場でぜひ感じとっていただきたい。



日本の学ランにそっくりな旧式の男子学生服
標本番号 H0274664 ほか



旧式的女子学生服は、控え目な印象のセーラー服
標本番号 H0274667 ほか



新式の男子学生服の例
標本番号 H0274948 ほか



新式的女子学生服の例。
体にフィットさせて着こなすのがオシャレ
標本番号 H0274943 ほか